

# とてっぽ

学校教育目標

十勝野に立ち 不屈を目指す

たくましい人間 自ら学ぶ人間 心豊かな人間



学校 HP

帯広市立川西中学校

学校便り

第11号

令和6年12月24日

校長 村上達也

## 2学期の終わりに

校長 村上達也

寒さが身にしみる季節となりました。本日で2学期が終わり、冬休み中に新年を迎えます。大きな「節目」となります。令和6年を振り返ると、新年早々に、能登半島地震、羽田空港での飛行機事故と、無情、非情な災害や痛ましい事故が起こり、夏には記録的な猛暑が続き、豪雨の多発等による自然災害にも翻弄され、『いつ、どこで、何が起こるか分からない』といった日常の生活が一変する不安を感じる人が多い一年でした。そのような中、夏にはパリオリンピックが開催され、多くの種目で日本人選手の活躍が連日のように報じられました。アメリカ大リーグでの大谷選手の活躍もあり、スポーツの力に私たちが希望と感動を与えられた一年でもありました。また、国際的な緊張や紛争は依然として存在し、平和の確立に向けて、継続的な努力が必要とされています。政治の動向にも注目が集まり、世界や日本がこれからどのように変わっていくのか、多くの人々が関心を寄せる年でもありました。

学校にも、入学式、始業式、終業式、卒業式というように、いくつかの「節目」があります。本日の2学期終業式は、その節目の1つです。「節目」とは、そもそも木材や竹などの「節」のある部分を示します。そこから「人生の節目」というように、「物事の区切り目」を表す言葉として使われています。その意味でも、明日からの冬休みは、大切な休息の時間でありながら、考え方や自らの取組によって、自己成長や新たな発見の「節目」となる時間としてください。3年生の進路に向けた取組はもとより、新しい本を読んだり、興味を持っている分野を深く掘り下げてみたりすることは、将来の可能性を広げる一歩となることでしょう。中学校の3年間は「自分の心と頭と体を精一杯使って、『本当の楽しさ』を知る大切な時間」です。冬休みという大切な時間を使って、「本当の楽しさ」を探し、皆さんが一層の成果を見せてくれることを期待しています。よい冬休みをお過ごしください。



(2学期終業式の式辞より)

「竹にはフシがある。そのフシがあるからこそ、竹は雪にも負けない強さをもつのだ。」

(本田宗一郎)

竹には節があります。もし、節目がなかったら、竹は簡単に折れてしまうようです。竹はしなやかに曲がりますが、簡単には折れません。それは、竹のところどころに節があるからなのです。また、竹の節の役割は、単に構造を強くしているだけではありません。竹は、それぞれの節目でも細胞分裂をすることによって成長を速くしています。多くの植物の成長点は茎の先端に一カ所ですが、竹は成長点が節ごとに併せて60ほどあるそうです。「雨後の筍」のことわざどおり、筍は成長が速いことで知られていますが、それは、それぞれの節で細胞分裂をして一気に伸びるからなのです。なるほど…。皆さんには「しっかり、まっすぐ、たくましく」成長してほしいと願っています。

2学期の本校では、日常の授業を中心とした学習活動に主体性と協働性による成長が見られました。各教科の学習では、理解を深めるために全力で粘り強く取り組む姿が、文化祭等の学校行事や「おびひろ市民学」を含む総合的な学習の時間、特別活動においては、自分自身に挑戦しながら互いに支え合う姿が多く見られました。令和6年度に本校が目指す「自立・貢献」に近づく成長を実感することができた2学期となりました。また、今年も地域の方々や小学校との連携を深める機会が多くあり、地域の皆様から学ぶことは多く、生徒にとって貴重な経験となっております。

保護者・地域の皆様にはたいへんお世話になりました。令和7年もよろしく願いいたします。

